(IV－47)　地域特性と交通ネットワークを生かした地域づくりに関する研究
——新潟県中条町、巻町、吉田町について—

新潟大学大学院　学 生 会 員　高橋　佳孝
新潟大学工学部　フェロー会員　大熊　孝

1，はじめに

近年の高速交通ネットワークの充実やアジア諸国の社会経済体制が急変により、今後日本海地域が日本、アジア諸地域に果たす役割は大きく、これまで以上に外部資本に依存する姿勢が強まり、様々な開発が進むであろうと予想される。

過去には外部資本による開発が進むにつれ、地域の個性や魅力が薄れてしまう傾向があったが、現在では地域の個性、魅力を主とした、つまり物より心の豊かさを重視した町づくりが全国的に進められている。

この相反する両者を地域はいかに受け入れ、両立させていくかが今後の課題であると考えられる。

この研究では新潟県における町づくりの特徴、問題点などを事例的に把握し、今後の町づくりにとって必要な条件を考察するものである。

2，対象地域の設定

今回、地域個性を持ち、また外部資本を求める姿勢の強い「町」を単位として設定し、かつ北陸自動車道沿線の町、新潟県巻町、吉田町を対象として調査をおこなった。そして、巻町の豊かな自然と吉田町の盛んな工業、この両町の性格に類似する二面性を有し、今後日本海沿岸東北自動車道が通る予定である新潟県中条町の将来を展望することを目的とした。

3，町づくりの歴史的把握

3－1　巻町

昭和 53 年に北陸自動車道が開通するまでは、主に町の基盤整備が中心であったが、開通以降は工業団地の造成、企業の誘致も行ってきた。また、平成になってからは恵まれた自然環境を生かした整備がなされ、近年には、ワイナリー、地ビールといった第１次から第３次産業を複合的に含む「第６次産業」ともいわれる観光的新産業が登場している。

3－2　吉田町

昭和 46 年に工業立町を宣言して以来工場団地、住宅団地を造成し、現在では新潟県町村第１位の製造品出荷額を誇る。近年では全国５つの吉田町や、アメリカの「ダンディー村」と交流を持つ。また、スポーツの振興を促し、人同士の融和強調に取り組んでいる。

3－3　中条町

昭和 31 年に油田探鉱所操業以来、工業の町として昭和 49 年の日立製作所など企業誘致に取り組み、、現在、製造品出荷額は、県内町村で吉田町に次ぎ第２位である。平元年に、市町村単位では日本で初めてアメリカ南イリノイ大学を誘致し、近年では工業団地の造成や、地場産業の育成の他、観光産業にも力を入れ、ハード、ソフト両面の強化を図っている。平成 14 年には日本海沿岸高速自動車道が開通予定である。

4，町の性質把握

町の性質を４つの区分に分類しその特徴を把握することにし、次の表－4.1 のように分類した。

表－４．１

外的ハード——主に町外資本・政策による物づくり	
(産業)　大企業誘致型	
内的ハード——主に町内資本・政策による物づくり	
(産業)　地域産業立脚型	
外的ソフト——主に町外政策による事づくり	
内的ソフト——主に町内政策による事づくり	
地域資源(表－４．２　参照)	

表－4．2　地域資源の分類

1次区分	2次区分	
本来的地域資源	潜在的資源	地理・地質・地勢・位置・海水
	天然資源	気候・降水・光・温度・風
	顕在的資源	農用地・森林・用水・河川
	環境的資源	自然景観・生態系
準地域資源	付随的資源	農業副産物・山林原野の草
	物産的資源	山菜・地域特産物
	歴史的資源	伝統技術・情報

【キーワード】第６次産業　大企業誘致型　地域産業立脚型　地域資源

(連絡先) 住所：新潟県新潟市五十嵐２の町８０５０
電話&FAX：０２５－２６２－７０２９

4－1　巻町の性質

産業に関しては地域立脚型で、主要農作物を生かした質の良い製品を作っており安定性はあるが、大きな経済効果は得られていない。また、角田山や海岸線を有するなど多くの地域資源に恵まれ、それを生かす基盤整備も徐々に充実しつつあり、魅力に富む町であるといえる。しかし、他地域との交流や人の融和強調をめざした政策が少ない。

4－2　吉田町の性質

産業では大企業誘致、地域立脚型とバランスがとれている。地域資源には乏しく魅力という部分には欠けるが、開発の容易な平坦地であることを生かして工業立町となったことは評価できる。また、幅広い交流事業が行われており、新たな交流関係を築いている。

4－3　中条町の性質

産業では大企業誘致型だけでは経済的効果に片寄りがあり、将来的には安定性に欠ける。地域資源は日本一小さい櫛形山脈や海岸線を有するなど、巻町同様豊富である。また、南イリノイ大学を誘致し、新たな町の交流モデルとして注目されている。

5，データ分析

今回、北陸自動車道開通前後のデータを中心に集め、高速道路、及び町づくりの政策の影響などを調べた。

5－1　人口（図－5．1）

巻、吉田町の関して、高速道路による影響は大きく見られない。中条町では、昭和 49 年に日立製作所の大型工場が誘致され、74 年から 75 年にかけて約 1800 人増加し、総人口の約 6%もの増となった。しかしその後は年々減少の傾向にあり、外的資本の効果が一時的であることを示している。

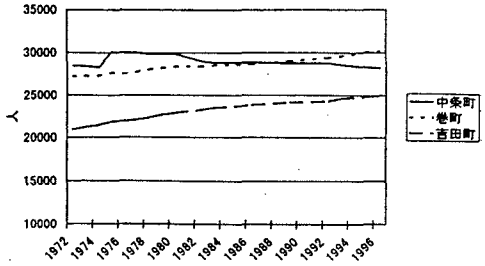
5－2　製造品出荷額（図－5．2）

吉田町において、北陸自動車道開通後(昭和 53 年)順調な伸びを示しており、その影響が見られる。近年では、バブル経済期以降吉田、中条町共に落ち込みを見せたが、大企業誘致型、地域産業立脚型といった産業政策の違い、製造品の片寄りの有無、高速道路の有無といった理由により、吉田町は 93 年以降持ち直しているのに対し、中条町はなおも下降状態である。

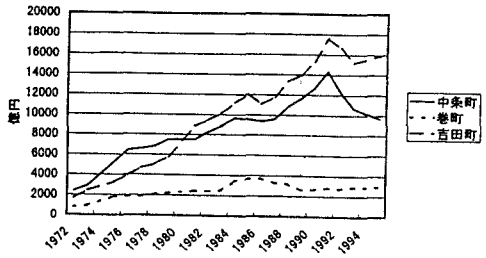
5－3　観光客入り込み数

巻町においては、自然を活かした観光が多く、気象に左右されやすいため数にばらつきがあるが、北陸自動車道開通以降は遠方からの観光客も増加し、その数を伸ばしつつある。また、平成に入ってからは、様々な観光基盤整備や政策、現代人の志向にあった第６次産業の登場により、過去最高の観光客数（平成８年度約 147,3000 人）を記録しつつある。

図－５．１　年代別人口の推移



図－５．２　年代別製造品出荷額の推移



6、まとめ

地域産業振興においては、大企業誘致型と地域産業立脚型とあり、時代的背景を考えると吉田町のように両者バランスのとれた産業で、かつ幅広い産業部門を有することが経済的安定性につながることが分かった。また、従来の１～３次産業を総合的に組み合わせた「第６次産業」が今後の町の発展に欠かせないものであることが分かった。

社会生活環境においては、高速交通を有効利用するためにも、地域と高速交通を有機的に結びつける社会基盤整備が必要である。また、物的条件の整備につれ、人間関係が疎遠にならぬよう、人と人との融和強調をめざす政策も重要であることが分かった。

交流事業においては、現在様々なアイデアを用いて繰り広げられているが、今後地域主導型社会の実現のためには、地域同士が継続的に協力しあい、かつ互いに刺激しあっていくことが必要であることが分かった。

7，中条町への提案

今後高速交通体系が整備されていく中条町に対し、巻･吉田町から得られた結論を元に以下を提案したい。①地域立脚産業の育成　②地域資源の再認識　③地域資源と有機的に結びついた交通網の整備とその他社会基盤整備　④交流関係の再確認と協力関係の一層の強化